



Letter

2003.8.5 VOL.7

CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

10年目を見据えて

今年は、例年より少々長めの梅雨も開け、毎日厳しい暑さが続いておりますが、皆さんいかがお過ごしですか。

今年度に入りトルコビンギョル地震、アルジェリア地震救援プロジェクトを立ち上げ、継続中のアフガニスタン、中国新疆ウイグル地震救援も含めて4つの救援プロジェクトの情報収集を継続して行っています。もちろん、立ち上げた救援プロジェクト以外にも、世界では数々の自然災害が発生しています。日本においても最近では、岩手県、宮城県での地震、九州での水害と災害は絶えることがありません。CODEは、KOBEの経験を世界へ発信するために、海外の災害救援を活動の柱に据えています。国内の災害においても震災の経験は教訓の一つとなっています。

被災地KOBEでは、2003年も残すところ半年をきり、震災10年ということがあちこちで言われはじめています。国内外を問わず1995年1月17日の阪神・淡路大震災を忘れないために、震災から10年の歩み、そして今後へ向けたメッセージを何らかの形で発信していく事が大切なことだと考えています。

具体的な取り組みとして、芹田代表が実行委員長を務める「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」と協働で国際フォーラムを開催する予定です。今まで2回準備会を開催し、被災地内のNGO、NPOをはじめ行政機関、国際機関や大学生など多くの参加をえて、活発な意見

交換が行われてきました。1回目では、参加者全員から、震災後からこれまでの活動や想い、そして10年目に向けて思っていること、考えていることを発表してもらいました。2回目では、グループに分かれ「10年目のあり方」についてディスカッションを行いました。それぞれにキーワードが出され今後の議論に有益なものとなりました。特に1回目の会議で、芹田代表が発言したように、10周年はゴールではなく、この間に積み重ねてきたものを未来につなげる一つの契機になればと考えています。

なお各回の議事録をご入り用の方は、当センター事務局までご連絡下さい。なお、次回第3回目の準備会は、9月中に開催予定です。どなたでもご参加いただけますので、ご興味のある方は、当センター事務局までご一報下さい。



(文責：事務局仲江川徹)

NGOことはじめセミナー報告

生活復興県民ネットの地域活動推進講座の助成金を受けて、「NGOことはじめ 5回連続セミナー」を開催しました。「NGOとは一体何なのか」をキーワードにNGOを理解する上での基礎知識として用語や歴史の説明から、具体的な活動事例や問題、その意義について学びました。毎回、セミナー終了時に参加者のみなさまから、セミナーの感想とNGOに関するアンケートをお願いしました。そのアンケートを一部紹介させていただきます。

あなたにとってNGOの魅力は何ですか？

- ・関わっている人が熱い
- ・迅速性と柔軟性
- ・草の根レベルの人づくりという国際協力
- ・ダイレクトに自分の力が試せる
- ・個人の意志が原動力になっていて、利益にとらわれない
今後聞いてみたいテーマは？
- ・難民問題
- ・地雷撤去作業
- ・心理教育や子どもの権利
- ・海外のNGOスタッフの話
- ・地域通貨（別の経済の仕組みについて）
感想・CODEへのご要望は？
- ・NGO本質が少し分かり、自分自身のためになりました・政策提言出来れば良いと思います
- ・NGOの活動だけではなく、その活動の目的や政府に対してどうつき合うか話してもらえ勉強になった
- ・メディアと政治にもっと参加していくこと、興味を持つこと、それが普通になれば良いなど思った
- ・個人の在り方や価値観が色々あるように、NGOの形態も草の根レベルから外交政治に関わるくらい大きなものなど様々で良いと思う
- ・もっと知られていない問題について勉強してみたい

今回の連続セミナーを通じて、NGOの多様な活動を知って頂くだけでなく、私たちに何ができるのか、何をしなければいけないのかを改めて考える良い機会となりました。国際協力・国際理解という難しく考えがちですが、身近な問題に関心を持つところから始められるものであると思います。また、この連続セミナーには多くの方々に参加して頂きました。なかでも学生などの若者が多く、NGOや国際協力、国際問題への関心の高さを感じました。これらのアンケート結果などから、10月よりNGOことはじめセミナーの新シリーズを開催致します。今回は「貧困」をメインテーマに飢餓・人権・教育・子どもたち・ODAの各分野からどのような取り組みを行っているのか考えます。皆様、是非ご参加下さい。

(文責：事務局福田典男)

シリーズ第1回

CODEに携わる人々

今号から不定期で、CODEの活動に携わっていただいているの方々をご紹介させていただきます。第1回目は、翻訳ボランティアとして関わっていただいている松田賢子さん(神奈川県

在住)です。

私がCODEで英訳ボランティアを初めて約10ヶ月になります。昨年仕事の都合で地方暮らしをしており暇を持て余していた頃、友人からの紹介でふたつ返事で引き受けました。数年前まで実はボランティアのことをかなり堅苦しく考えていました。何か専門的な知識が必要なのではないかと、一旦始めたら決められた時にボランティアに行くことを暗黙のうちに期待され、自分の時間を常に束縛されるのではないかと...。そんな不安からなかなか自らボランティアします！とは切り出せなかったのです。でも一昨年に一年間暮らしていたイギリスでは、学校でもボランティアを斡旋していて、犬の散歩でも立派なボランティアだよと言われて、肩の力が抜けた気がしました。その後、川の掃除やイベントの手伝い等、ごく簡単なボランティア体験をしています。どのボランティアも参加している人は、とても楽しんでやっているし、プレッシャーを感じながらするのはボランティアじゃないと思うようになりました。

初めの頃はCODEのことをよく知らないまま仕事をしていましたが、せっかく出会ったCODEのことをもっと知ろうと、地元の大阪に帰省した際に事務所を訪ねました。それまで何のためにやっているのか正直よくわかっていなかったのですが、CODEの活動や自分がしていることとのつながり等が見えてきて、俄然やる気になりました。翻訳で携わっているアフガニスタンのことも、実はテレビのニュースで見る程度の知識しかなかったのに、まだあまり知られていない部分に想像を超える様々な困難が山積みである事実も少しずつ認識しています。社会情勢の勉強、英語の勉強、暇つぶし(当初は)の一石三鳥で楽しんでやっています。

これまでの活動記録7/5～8/5

- 7/10 第5回NGOことはじめセミナー開催
- 7/14 近畿宗教婦人連盟滋賀役員会議にて「ぶどう基金」アピール
- 7/17 アルジェリア地震救援
第14回運営委員会
- 7/18 関西NGO協議会定例会出席
- 8/ 4 JCA留学生セミナー受入(~9日)

ありがとうございます。

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付<7/1～7/31まで>

清宗正明(大阪府),小寺弘子,斉藤茂樹,宝珠山紀子(以上兵庫県)

新規会員<7/1～7/31まで>

・賛助会員：加藤宗利(栃木県),上条紘昭(長野県),上田敬子(大阪府)上田耕蔵,西田照代(以上兵庫県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL：078-578-7744 FAX：078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替：00930-0-330579